

気仙沼市立病院新改革プランの 令和元年度の実施に係る点検及び評価報告書 資料編



新改革プランについては、以下の区分で評価をしています

評価区分

A	定量的な目標	計画どおり目標が達成され、評価できる
	定性的な目標	組織一丸となってこれまで以上に取り組み、評価できる
B	定量的な目標	計画どおりの目標は未達成であるが、目標値に近く、やや評価できる
	定性的な目標	特定の部署が、これまで以上に取り組み、やや評価できる
C	定量的な目標	目標達成に向けた取組が不十分で、計画が未達成であり、今後の取組に期待する
	定性的な目標	これまでの取組と特に変わらず、今後の取組に期待する
D	定量的な目標	目標達成に向けた取組方法についての検討段階であり、今後の取組に大いに期待する
	定性的な目標	これまでの取組より活動量が減り、今後の取組に大いに期待する
E	定量的な目標	未実施
	定性的な目標	未実施

新改革プラン 経営の効率化に向けた取組状況とその評価

気仙沼市立病院

R元年度の病床利用率は76.9%となり、H30年度より0.2ポイント低下しましたが、下期から目標管理の取組を開始したことにより、病床利用率が改善し、入院収益が増加しました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(1)

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	各年度の評価			
			R元 年度	H30 年度	H29 年度	
市立病院	収益向上策	<ul style="list-style-type: none"> 病床管理の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度の病床利用率は76.9%となり、H30年度の77.1%に対し、0.2ポイント低下した R元年9月から、部門別に目標設定を行い、病棟では病床利用率の目標を設定し、同年上期の1日当たり実績253.1人から、同年下期は、1日当たり実績269.8人と、1日当たり16.7人(下期合計3,056人)の患者増加につなげた 	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 診療部門と医事課の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 医局会等において、外来迅速検体検査加算、特別食加算の算定方法、退院時処方における留意点、選定療養費導入に関する取組について、医師向けに勉強会を実施した 病院の経営指標・業績指標に対する目標管理の取組に合わせ、各部門へ実績の共有を進めることができた R2年度の報酬改定対応に向けた情報提供等を医局等を実施した 	B	B	C
		<ul style="list-style-type: none"> 未収金対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 未収金徴収業務の一部を弁護士法人に委託した 弁護士法人への委託化や病院職員による訪問徴収を強化した結果、R元年度は34,350千円の患者分未収金の徴収につながり、H30年度と比べ、2,952千円徴収金額が増加した(H30年度患者分未収金徴収実績31,398千円) 	B	C	C
		<ul style="list-style-type: none"> 市民への検診啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 検診(健診)担当医を配置できなかったため、従来どおり企業健診を中心に対応した 	C	C	C

引き続き各委員会において、予算の執行状況・経営状況を踏まえた管理と、各部門で実施できるコスト削減の取組を推進しました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R元年度の取組状況	各年度の評価		
			R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	費用削減策	<p>【医薬品】</p> <ul style="list-style-type: none"> H30年度と同様、薬事審議会において、新規に採用する薬品の一増一減ルールを徹底し、採用薬品数の増加防止と、過剰在庫の発生予防に取り組んだ 高額医薬品について、価格交渉品目を定め、納入価格の低減を実現した <p>【診療材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療材料管理委員会において、新規購入を申請された診療材料に対して、機能性と価格の両面で慎重に検討を行った 各部門におけるコスト削減の取組として、臨床工学室では、透析回路の見直しを行い、年間換算約100万円(R元年度は5か月で45万円の実績)のコスト削減を実現した 医療材料管理委員会で、診療材料の納入価について、他病院とのベンチマーク分析の必要性を検討し、R2年度の契約に向け業者選定等の準備を開始した <p>【医療機器関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器整備委員会において、整備要望機器の審査を行い、約700万円の購入に抑えた 放射線機器の保守点検に関する委託契約の見直しについて検討した 	B	B	C
		<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡等の中央化 <p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに中央化した医療機器を継続して管理している R元年度は新たに中央管理に移行する医療機器はなかったものの、麻酔器の日常点検業務を開始した </p>	A	A	A

サービス向上に向け、病院機能評価受審に向けた方針、ボランティアの活用等、これまで取り組めていなかった施策についての検討を開始しました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(3)

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度 実績数値	各年度の評価			
				R元 年度	H30 年度	H29 年度	
市立病院	サービス向上策	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査 目標値 外来患者満足度:85% 入院患者満足度:85% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度に引き続き、接遇向上委員会が中心となり患者満足度調査を実施した また、「気仙沼市立病院市民懇談会」を市内9会場で開催し、地域住民との意見交換を行った 	外来:64.8% 入院:79.7%	C	C	E
		<ul style="list-style-type: none"> 待ち時間短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療は予約診療を継続しており、受付から会計終了までの平均滞在時間は2時間14分となった 予約患者の予約時刻から会計終了までの平均時間は、1時間39分となり、H31年1月の調査時から、約3分短縮した。 外来会計が混雑する時間帯は会計入力の職員配置を変更し、待ち時間短縮に努めた 	3分間の短縮	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 病院機能評価受審の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 病院機能評価の受審に向けた各種取組を、R2年度から院内に周知する予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、R3年度以降に先送りすることを決定した 	—	D	D	D
		<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活用に向け、必要な分野についての検討を進めた結果、がん患者に対するサポート業務や、病院コンシェルジュ業務等が挙げられ、早期導入も検討されたが、新型コロナウイルスの影響もあり、R2年度以降に先送りとなった 	—	D	E	E

経常収支比率に変化は見られませんでした。が、医業収益が増加したことで、その他の経営指標で経営改善の兆候が見られました

市立病院 収支改善に係る数値目標について(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
					R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率(%) 目標値:94.2% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の経常収支比率91.7%(目標値:92.1%)に対し、R元年度の実績は91.7%(目標比-2.5ポイント)と横ばいで推移した。要因としては、入院収益、外来収益ともに増加したものの、医業外収益(他会計補助金・負担金等)の減少、医業外費用(消費税増等)の増加により経常損益、経常収支比率ともにH30年度と同水準となった 	91.7%	B	B	C
		<ul style="list-style-type: none"> 医業収支比率(%) 目標値:85.3% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度の医業収支比率76.6%(目標値:83.2%)に対し、R元年度は78.9%と2.3ポイント改善した。要因としては、入院収益、外来収益ともに増加したのに対し、医業費用は減少したため、数値が改善した 	78.9%	B	C	C
	経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 職員給与費対医業収益比率(%) 目標値:48.2% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度職員給与費対医業収益比率51.3%(目標値:49.4%)に対し、R元年度は50.3%と目標比-2.1ポイントとなったものの、H30年度比で1.0ポイント改善した 職員給与費はH30年度より約2,000万円増加したものの、医業収益が増加したことに伴い、比率が改善した 	50.3%	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 材料費対医業収益比率(%) 目標値:22.8% 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度材料費対医業収益比率23.5%(目標値:22.8%)に対し、R元年度は23.3%と目標比-0.5ポイントとなったものの、H30年度比で0.2ポイント改善した H30年度と同様、薬剤科主導による採用薬品数の管理及び見直しの取組、医療材料委員会や各部門による診療材料の見直し、コスト削減の取組に加え、医業収益が増加したことに伴い、比率が改善した 	23.3%	B	B	C

H30年度と比較し、入院・外来ともに患者数は伸びませんでした。下期から取り組んだ経営改善策である病床利用目標等が寄与し、業績改善の兆しが見えました

市立病院 収支改善に係る数値目標について(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
					R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	収入確保	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率(%) 目標値:88.2% 	<ul style="list-style-type: none"> R元年9月から病棟別に1日当たり患者数に関する目標設定を行い、月次チェックを徹底した R元年度上期の1日当たり入院患者数は253.1人/日(H30年同期:261.3人/日)、下期の1日当たり入院患者数は269.8人/日(H30年同期:263.2人/日)、通期で261.5人/日(H30年度:262.2人/日)となった。特に、下期は入院患者数が大幅に増加したことから取組に成果がみられた 延患者数の比較は、対H30年上期比1,502人の減少に対して、対H30年下期比1,456人の増加となった 	76.9%	B	C	C
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり入院患者数(人) 目標値:300人 		261.5人	B	C	C
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり外来患者数(人) 目標値:1,015人 		959.5人	B	B	C
	経営安定化	<ul style="list-style-type: none"> 医師数(研修医含む)(人) 目標値:54人 	<ul style="list-style-type: none"> 市長・院長が東北大学を訪問し、医師派遣について調整した 総合診療に関する専攻医受入協力病院として東北大学、仙台医療センター、東北医科薬科大学との連携について調整した 医学生向け病院案内パンフレットを見直した 	53人	A	A	A

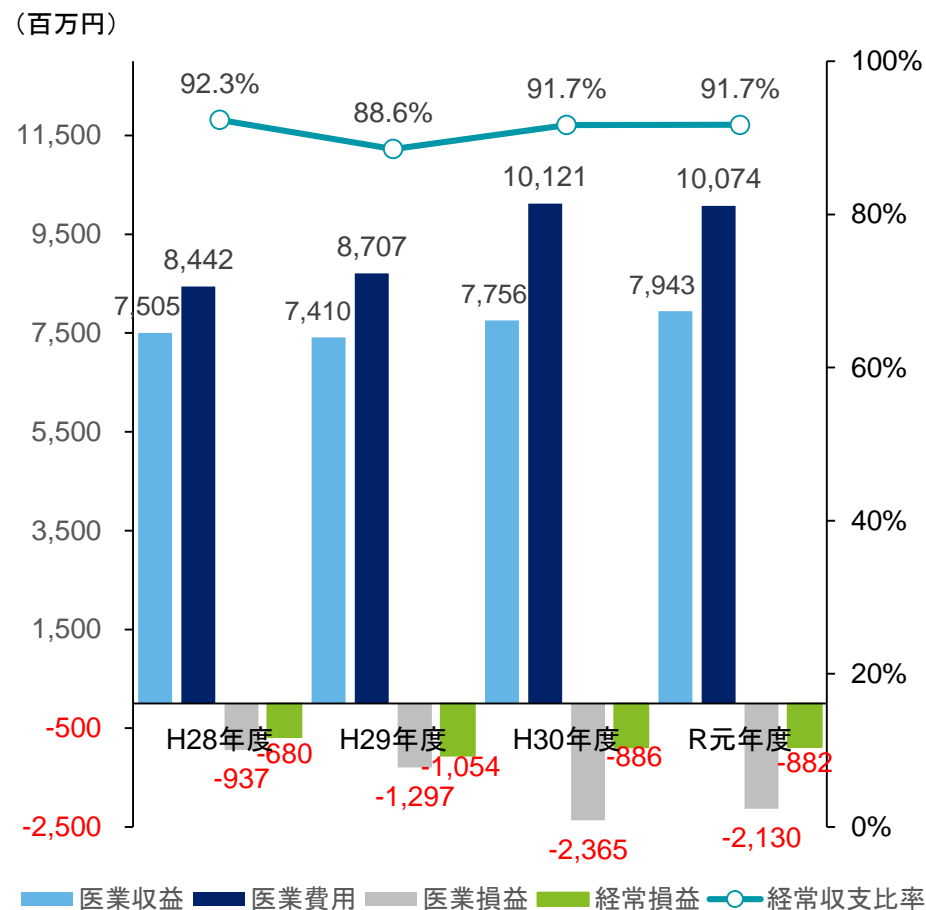
下期(10月～3月)以降の入院患者数増加や、外来診療単価の上昇といった収益増加要因を背景に、医業収支比率が改善した一方で、他会計負担金等が減少したため、経常収支比率は横ばいで推移しました

市立病院の収益推移

損益計算書 (単位:百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
医業収益	7,505	7,410	7,756	7,943
医業費用	8,442	8,707	10,121	10,074
医業損益	△937	△1,297	△2,365	△2,130
医業収支比率	88.9%	85.1%	76.6%	78.8%
医業外収益	701	742	2,023	1,826
医業外費用	444	499	544	578
経常損益	△680	△1,054	△886	△882
経常収支比率	92.3%	88.6%	91.7%	91.7%
特別収益	0	1	1	0
特別費用	16	57	36	7
当期純利益	△696	△1,110	△921	△889
当期未処分利益	△7,693	△8,803	△9,724	△10,614

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

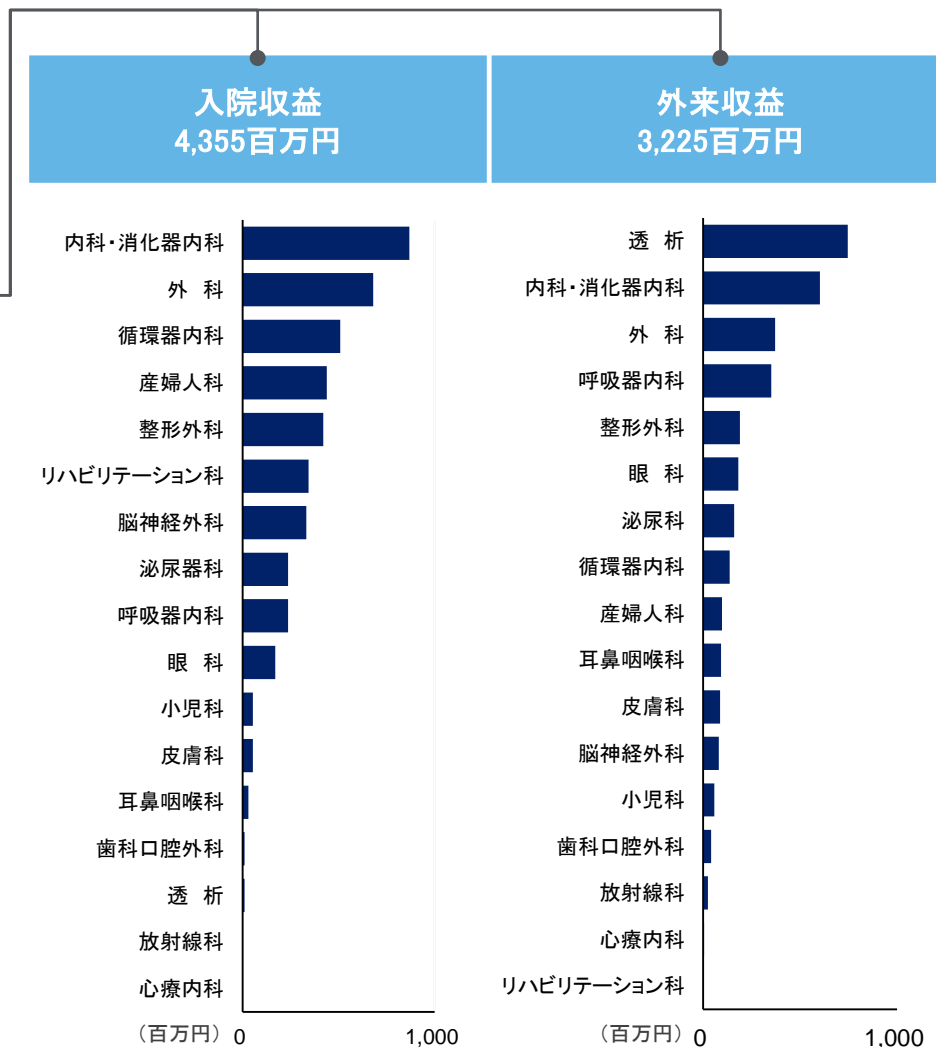
経常損益の推移



料金収入は約166百万円増加(H30年度実績7,414百万円)をしているものの、依然として病床利用率が計画を下回っていることもあり、未達成となっています

市立病院 新改革プランの収支計画と実績(R元年度・収益)

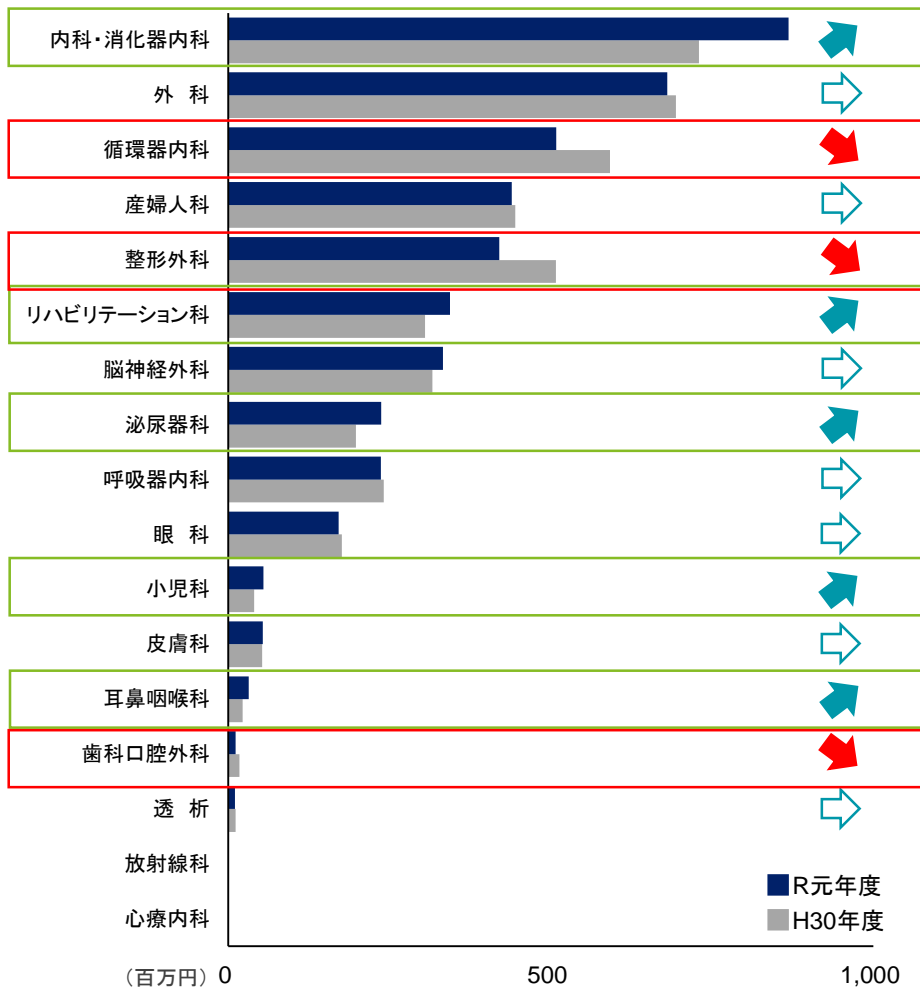
収入(単位:百万円)	R元年度 目標	R元年度 実績
1 医業収益	8,293	7,943
(1)料金収入	7,972	7,580
(2)その他	321	363
うち他会計負担金	224	243
2 医業外収益	1,391	1,826
(1)他会計負担金・補助金	465	662
うち基準外繰入	47	119
旧病院企業債利息分	20	17
新病院企業債利息分	27	12
(2)国(県)補助金	18	14
(3)長期前受金戻入	801	1,060
(4)その他※	107	90
経常収益	9,684	9,769



※附帯事業収益含む

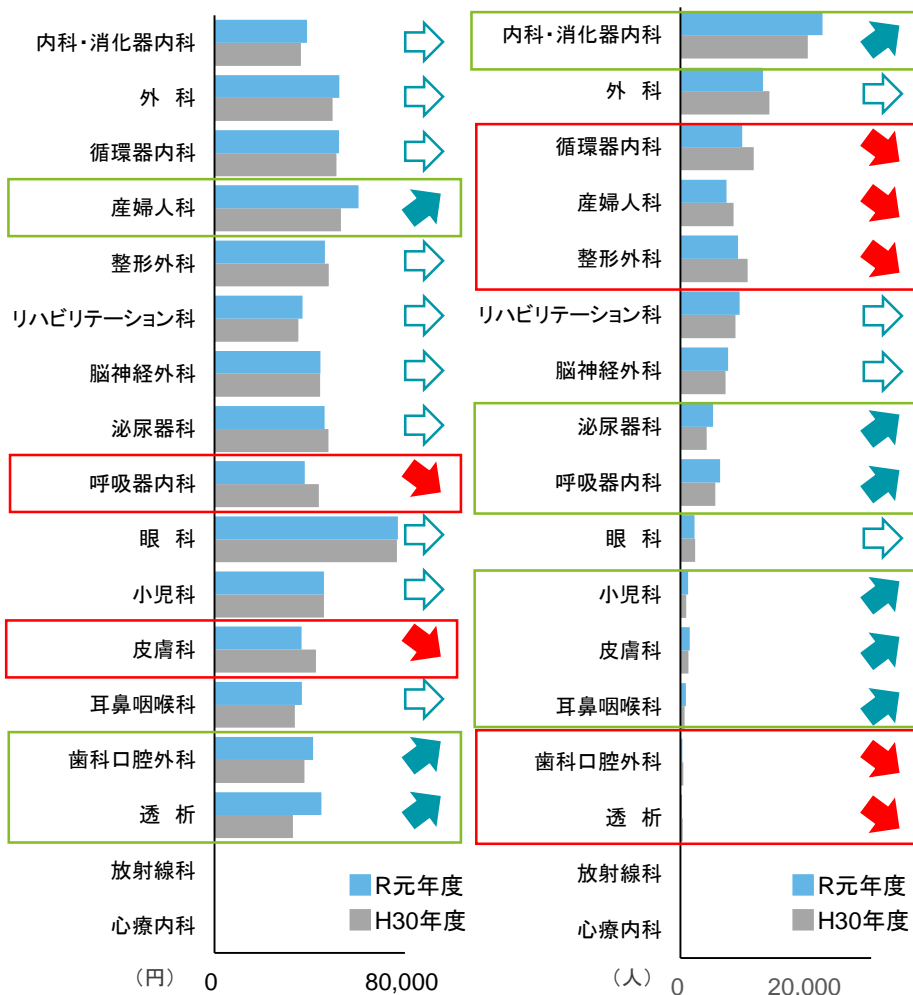
入院単価,延患者数ともにほぼ横ばいで推移したものの,最も患者が多い内科で患者数が増加したことにより,入院収益の増加につながりました

市立病院 H30年度～R元年度の診療科別収益推移(入院)



R元年度 入院単価:45,510円
H30年度 入院単価:44,352円

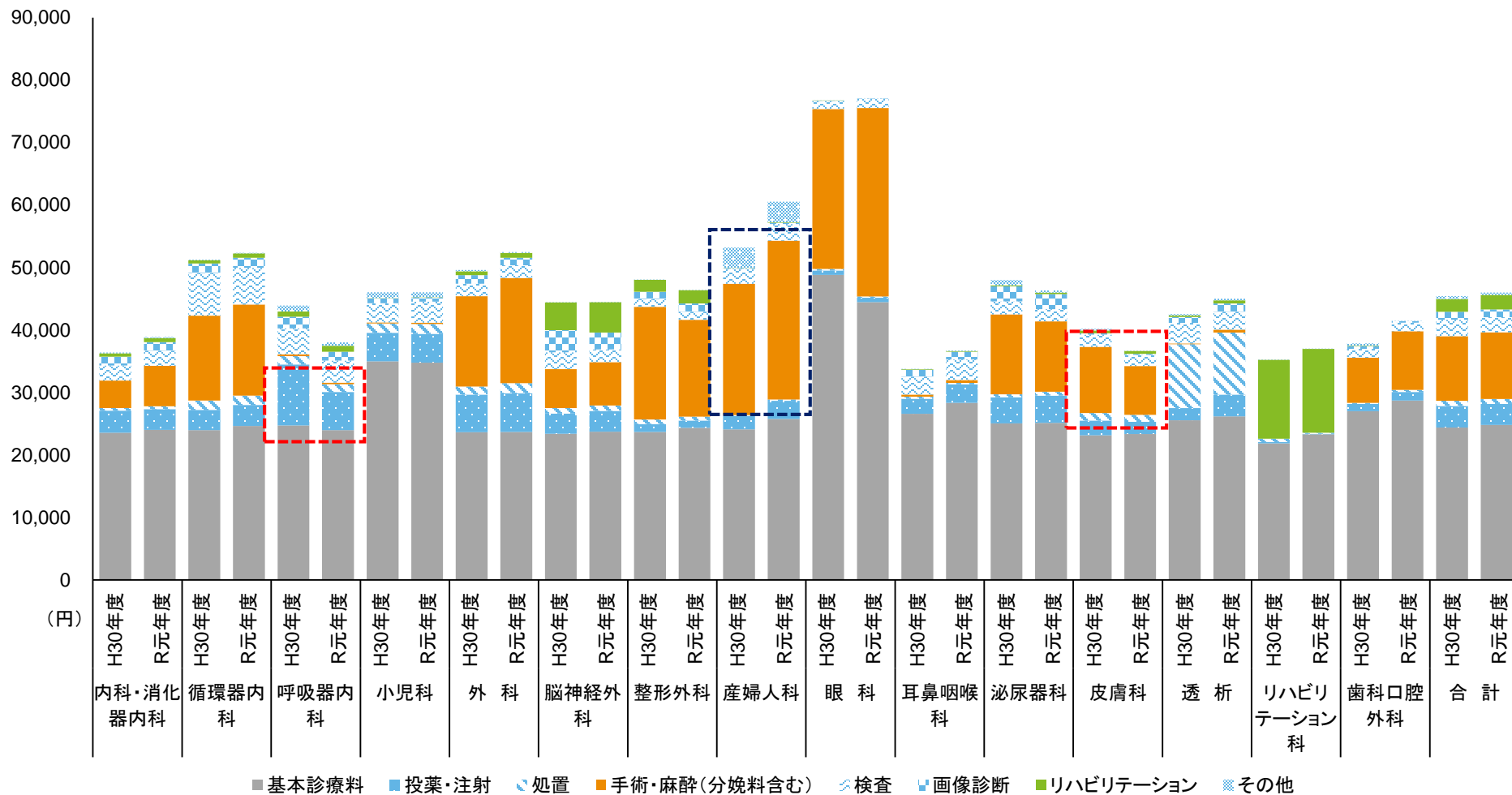
R元年度 延患者数: 95,697人
H30年度 延患者数: 95,720人



※入院患者1人1日当たりの診療収益を「入院単価」とする ➡ 対前年比10%以上アップ ➡ 対前年比10%以上ダウン

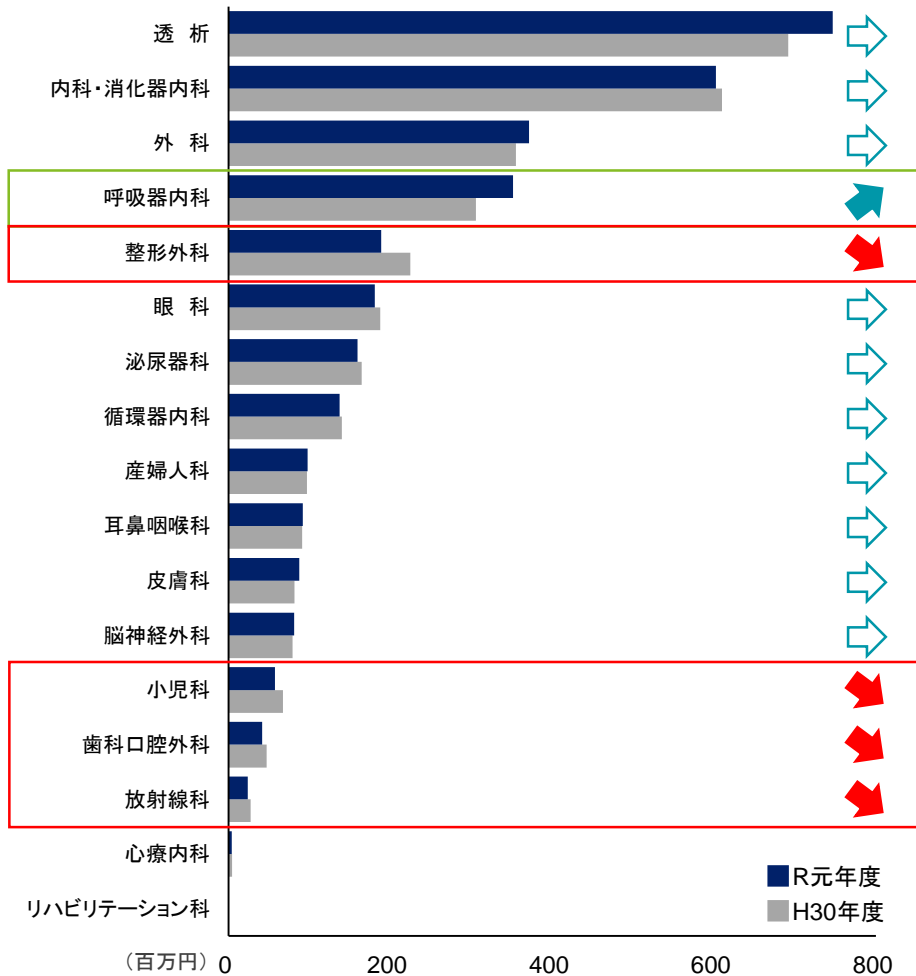
呼吸器内科では投薬・注射，皮膚科では手術・麻酔の単価が下がりました
 一方，産婦人科では手術・麻酔の単価が増加したため，入院単価が上がりました

市立病院 H30年度～R元年度患者1人1日当たりの入院単価の変動比較



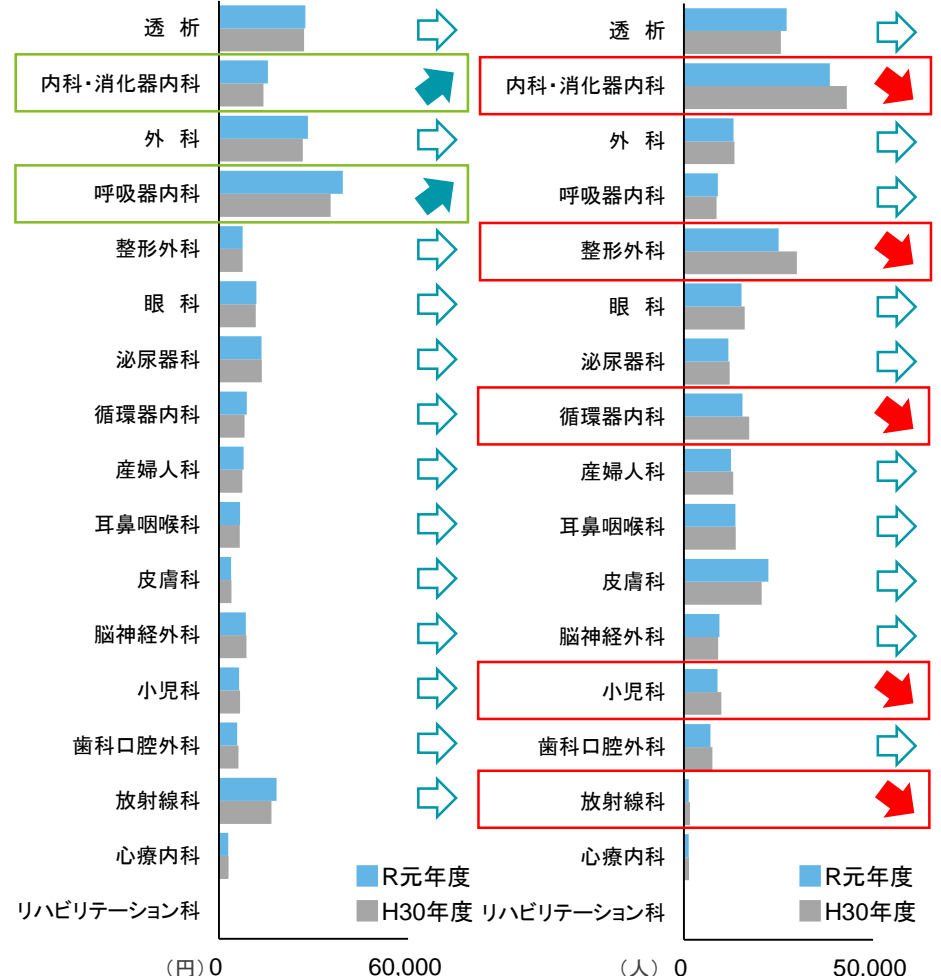
人口減少や地域医療機関との役割分担が進むことで、今後も外来患者数は逡減するものと考えられることから、医療の質向上による診療単価の上昇が期待されます

市立病院 H30年度～R元年度の診療科別収益推移(外来)



R元年度 外来単価:13,889円
H30年度 外来単価:13,026円

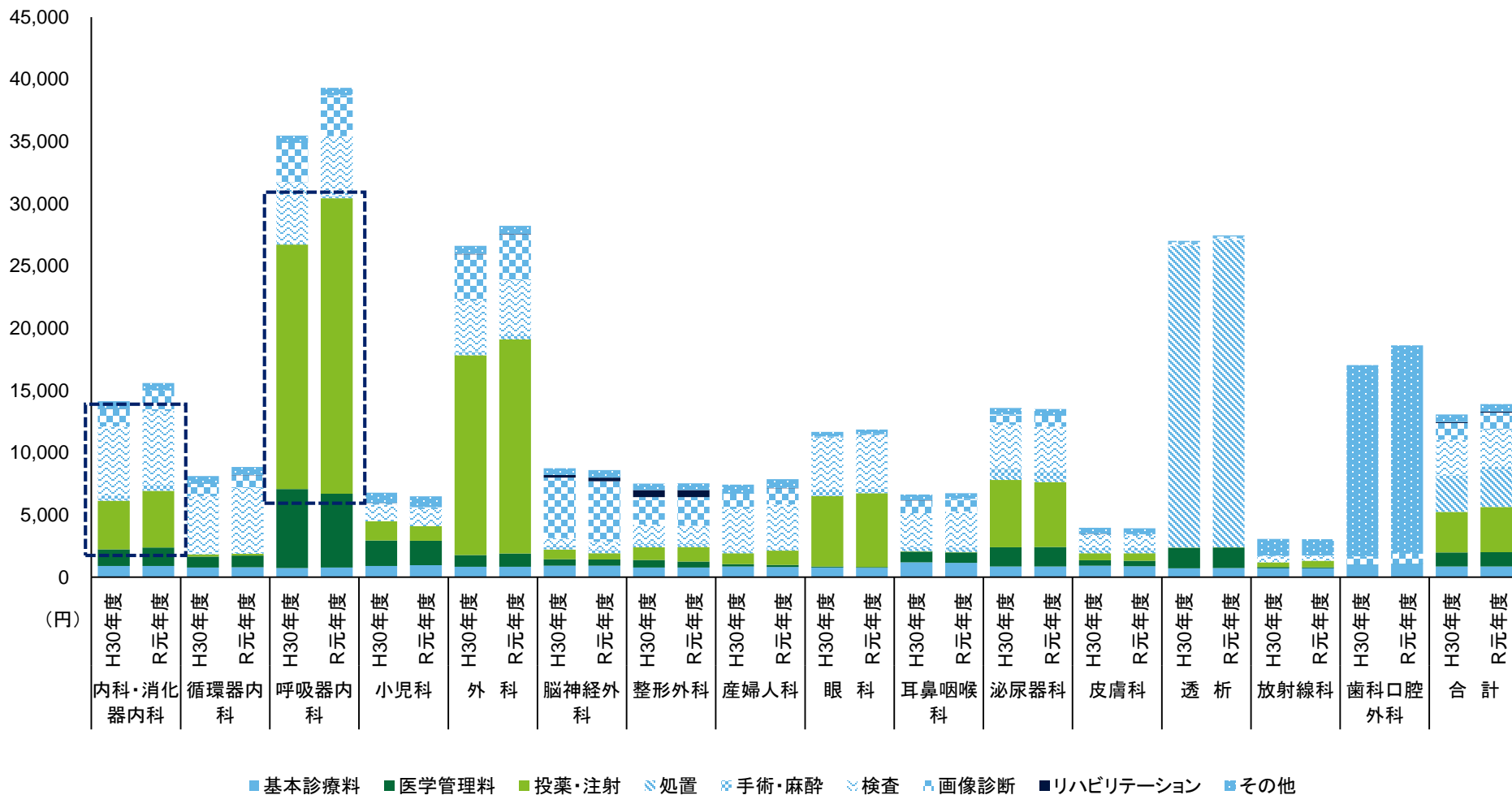
R元年度 延患者数232,209人
H30年度 延患者数243,234人



※外来患者1人1日当たりの診療収益を「外来単価」とする ➡ 対前年比10%以上アップ ➡ 対前年比10%以上ダウン

内科・消化器内科では投薬・注射，検査の単価の増加，呼吸器内科では投薬・注射の単価が上昇したことにより，外来単価が上昇しました

市立病院 H30年度～R元年度患者1人1日当たりの外来単価の変動比較



医業収益は改善傾向にあるものの、医業費用の抑制が進んでおらず、目標を下回っている状況です

市立病院 新改革プランの収支計画と実績 (R元年度, 費用)

支出(単位:百万円)	R元年度 目標	R元年度 実績	達成状況
1 医業費用	9,719	10,074	×
(1)職員給与費	3,994	3,996	×
(2)材料費	1,895	1,851	○
(3)経費	2,423	2,479	×
(4)減価償却費	1,378	1,659	×
(5)その他	29	89	×
2 医業外費用	565	578	×
(1)支払利息	114	77	○
(2)その他	451	501	×
経常費用	10,284	10,652	×

市立病院 新改革プランの収支計画と実績 (R元年度, 対医業収益比率)

支出	R元年度 目標	R元年度 実績	達成状況
1 医業費用	117.2%	126.8%	×
(1)職員給与費	48.2%	50.3%	×
(2)材料費	22.9%	23.3%	×
(3)経費	29.2%	31.2%	×
(4)減価償却費	16.6%	20.9%	×
(5)その他	0.3%	1.1%	×
2 医業外費用	6.8%	7.3%	×
(1)支払利息	1.4%	1.0%	○
(2)その他	5.4%	6.3%	×
経常費用	124.0%	134.1%	×

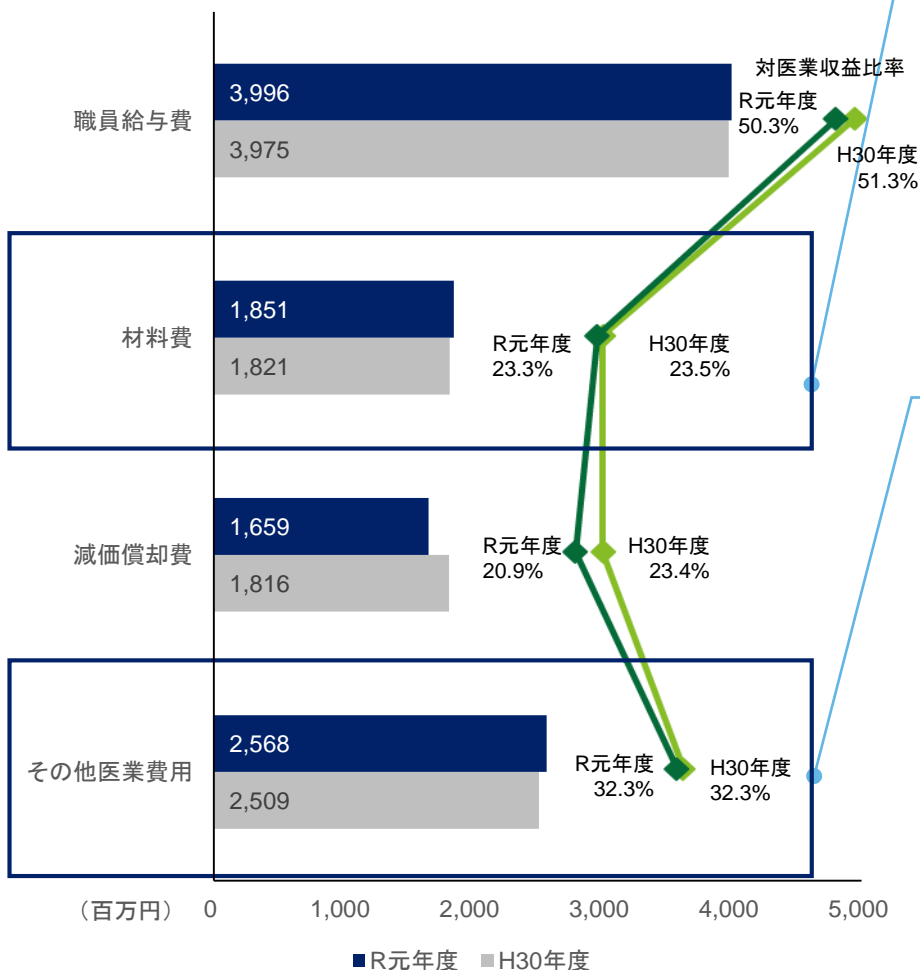
表中の達成状況の凡例

○ :新改革プランの目標値範囲内の実績となった

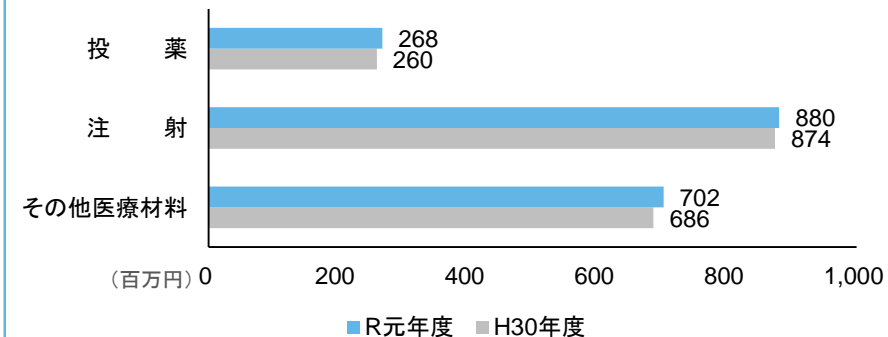
×

市立病院では材料費は横ばいの金額で推移しており、**医業収支比率が改善しています**
 その他医業費用も医業収支比率は変化がないものの、**委託費が対H30年度比1.4億円増加しています**

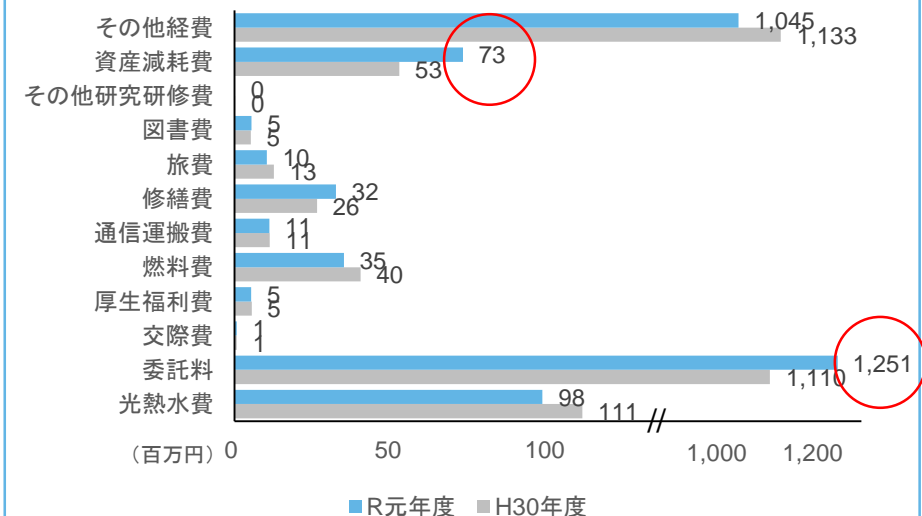
市立病院 H30年度～R元年度 費用内訳別推移



材料費の内訳毎の年度推移



その他医業費用のうち、経費の内訳毎の年度推移



※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

気仙沼市立本吉病院

H30年度から検討してきた診療報酬について新たに届出を行う等、収益向上に向けて取り組んできました

本吉病院 経営の効率化に向けた取組(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R元年度の取組状況	各年度の評価		
				R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収益向上策	<ul style="list-style-type: none"> 診療部門と医事部門の連携 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度検討した在宅療養等支援病院の取得については、24時間往診が可能な体制の確保に課題が残ったため、R元年度も取得を見送った 生活習慣病予防管理料について、診療の質の向上、収益性、業務効率性から検討を行った結果、届出を見送ることとした 認知症ケア加算、重症者等療養特別環境加算の届出を行い、算定を開始した 	A	A	B
		<ul style="list-style-type: none"> 未収金対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度末時点と、R元年度末時点の患者負担分未収金額にほぼ差異がなく、単年での未収金発生額は少額に抑えられている 	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 市民への検診啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 職場健診を継続して対応し、地域住民の疾病予防に努めている 	C	C	C
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品、診療材料の節減 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度に引き続き、管理課を中心としながら価格交渉、在庫管理を徹底した 薬剤料が中心となりながら、可能な限りジェネリック医薬品への切り替えを行い、薬剤費の抑制を行った 	A	A	A

R元年度は患者満足度調査を実施し、患者のニーズを把握しました
調査結果から分かった課題等に対して次年度以降取り組み、更なるサービス向上を目指します

本吉病院 経営の効率化に向けた取組(2)

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R元年度の取組状況	各年度の評価		
				R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	サービス向上策	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> R元年6月に初めての患者満足度調査を入院、外来、訪問診療の患者に対して実施した 70点を合格点としたとき、外来は平均73.8点、入院80.4点、訪問診療83.9点の評価となっており、いずれの診療部門においても合格点という結果になった 患者満足度調査の結果から、「在宅医療を実施している」ことから選ばれており、引き続き地域包括ケアシステムの推進を図りながら、地域医療への取組を継続していくことが求められている 一方、改善点として患者が安心して受診できるような環境づくり(医師の充足、医師による丁寧な病状説明)、看護師等の医療スタッフ、事務スタッフの接遇向上等が求められている 	A	C	E
		<ul style="list-style-type: none"> 待ち時間短縮 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度に引き続き、原則予約診療を徹底した 予約外患者についても、医師・看護師が優先順位を明確化することで、待ち時間短縮に向け取り組んだ 毎月の会議の中で日々の待ち時間の状況把握を行い、課題等について検討した R元年度に実施した患者満足度調査を踏まえ、状況把握を行い、課題の分析を行った 	B	C	C

入院及び外来患者数の減少の影響によって医業収益が減少し、H30年度と比較して各経営指標は低下したものの、経常収支比率を除き、目標を達成しています

本吉病院 収支改善に係る数値目標について(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
					R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率(%) 目標値:99.7% 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度は入院、外来ともにH30年度と比較して、患者が減少し、それに伴い医業費用も減少となった 収益減少の影響が大きく、医業収支比率は、H30年度の71.2%(目標値:59.1%)から、R元年度は、67.3%と3.9ポイント低下した 当初見込んでいた医業収益を下回った一方で、他会計からの繰入金はH30年度と同水準であったため、R元年度は経常収支もマイナスとなり、H30年度経常収支比率102.6%(目標値:99.8%)に対し、R元年度は、96.8%と5.8ポイント低下した 	96.8%	B	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 医業収支比率(%) 目標値:59.9% 		67.3%	A	A	A
	経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 職員給与費対医業収益比率(%) 目標値:95.1% 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度も引き続き、経営幹部(院長、管理課長等)が市と意見交換を実施し、適正な人員配置の検討を行ってきたが、医業収益が減少したことで、H30年度職員給与費対医業収益比率74.6%(目標値:59.1%)に対し、R元年度は、79.2%と4.6ポイント上昇した 	79.2%	A	A	B

H30年度と比べ、病床利用率等収益に関する指標は低下したものの、目標を達成しています

本吉病院 収支改善に係る数値目標について(2)

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R元年度の取組状況	R元年度 実績数値	各年度の評価		
					R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	収入確保	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率(%) 目標値:72.0% 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度も、入院患者の適切な受入れと、医師・看護師によるベッドコントロール、市立病院との連携を継続した R元年度は気仙沼地区からの入院患者は増加したものの、本吉地域の患者は延68人減少、南三陸町からの入院患者が延216人減少している 1日当たりの入院患者数が減少した要因としては、新型コロナウイルス感染症が発生したことにより、患者が受診を控えたこと等が考えられる(H30年度20.4人/日) 	74.2% (27床で計算)	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり入院患者数(人) 目標値:18人 		20.0人	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 1日当たり外来患者数(人) 目標値:115人 		115.0人	A	A	A
	経営安定化	<ul style="list-style-type: none"> 医師数(研修医含む)(人) 目標値:5人 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医の確保について、宮城県や東北大学病院等への要請を行った結果、R元年度も常勤医4人体制(うち、1人は4か月交代で派遣)を維持することができた 家庭医療後期研修医制度による研修医の募集を継続した 	4人	B	B	B

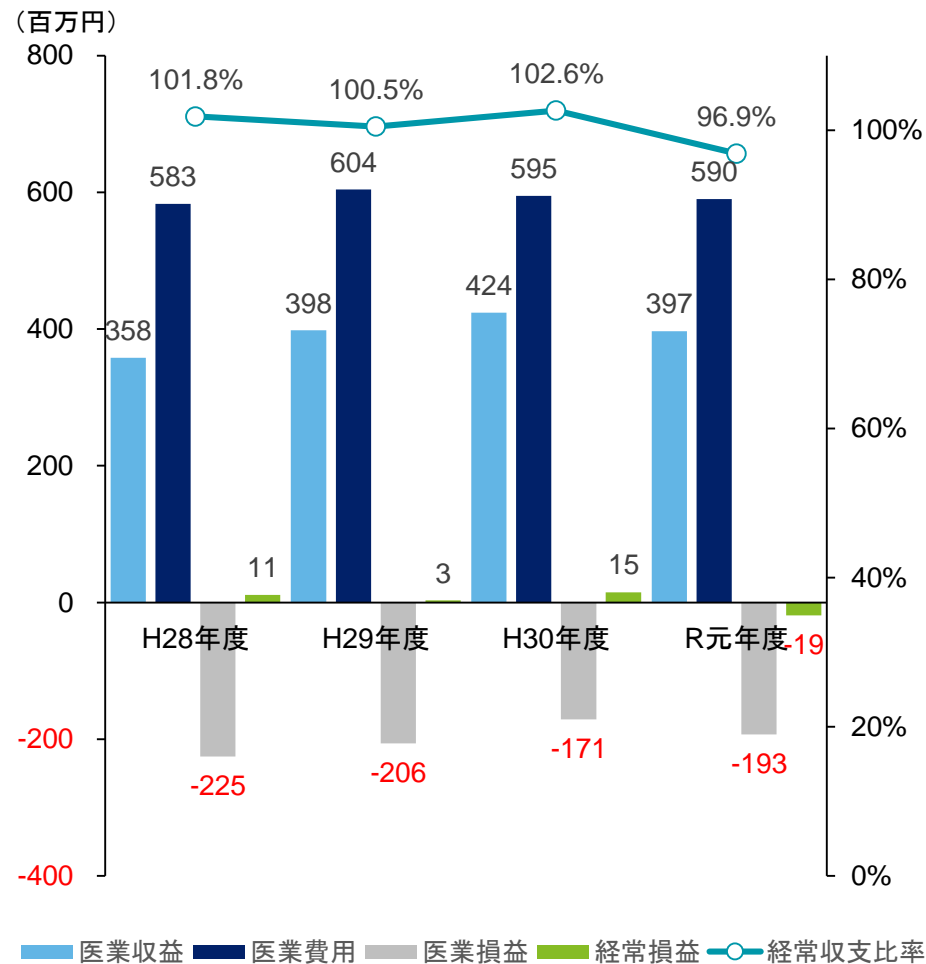
R元年度は医業収益が減少したことで、医業損益がH30年度より2,200万円減少しました
その結果、経常収支比率は96.8%となりました

本吉病院損益計算書の推移

損益計算書 (単位:百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
医業収益	358	398	424	397
医業費用	583	604	595	590
医業損益	△225	△206	△171	△193
医業収支比率	61.4%	65.9%	71.3%	67.3%
医業外収益	249	223	202	189
医業外費用	13	14	15	15
経常損益	11	3	15	△19
経常収支比率	101.8%	100.5%	102.6%	96.9%
特別収益	1	0	0	0
特別費用	0	0	0	0
当期純利益	12	3	16	△19
当期未処分利益	△114	△111	△95	△114

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

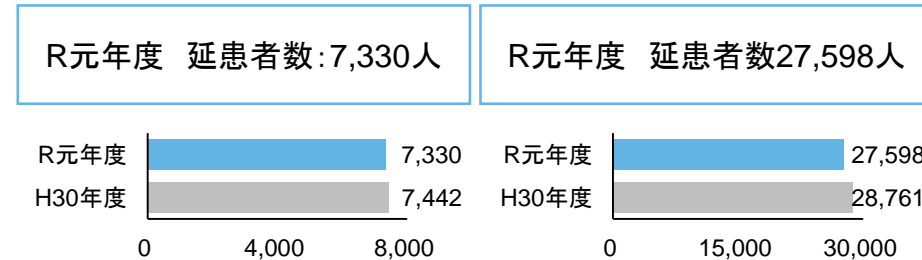
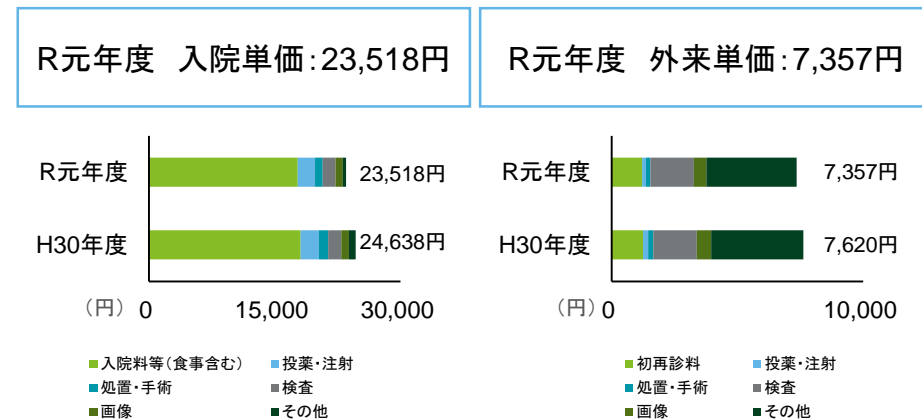
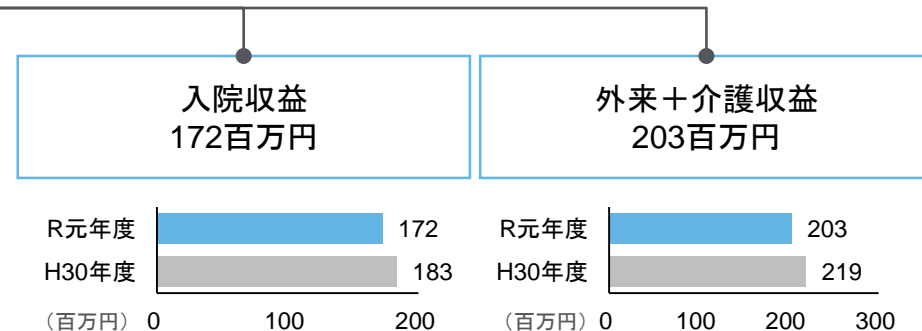
経常損益の推移



R元年度も引き続き、新改革プランで定めた目標を達成しています
 しかし、入院・外来ともに患者数・単価が低下しており収益性が低下しています

本吉病院 新改革プランの収支計画と実績(R元年度・収益)

収入(単位:百万円)	R元年度 目標	R元年度 実績
1 医業収益	361	397
(1)料金収入	340	375
(2)その他	21	21
うち他会計負担金	0	0
2 医業外収益	248	189
(1)他会計負担金・補助金	230	171
うち基準外繰入	0	0
任期付職員人件費	0	0
(2)国(県)補助金	0	0
(3)長期前受金戻入	18	17
(4)その他	0	0
経常収益	609	586



対医業収益比率でみると、減価償却費を除き目標を達成しており、無駄な支出を抑えた事業運営を行っています

本吉病院 新改革プランの収支計画と実績
(R元年度, 費用)

支出(単位:百万円)	R元年度 目標	R元年度 実績	達成状況
1 医業費用	602	590	○
(1)職員給与費	343	314	○
(2)材料費	49	48	○
(3)経費	181	194	×
(4)減価償却費	28	32	×
(5)その他	1	2	×
2 医業外費用	8	15	×
(1)支払利息	1	1	○
(2)その他	7	14	×
経常費用	610	605	○

表中の達成状況の凡例

○ :新改革プランの目標値範囲内の実績となった

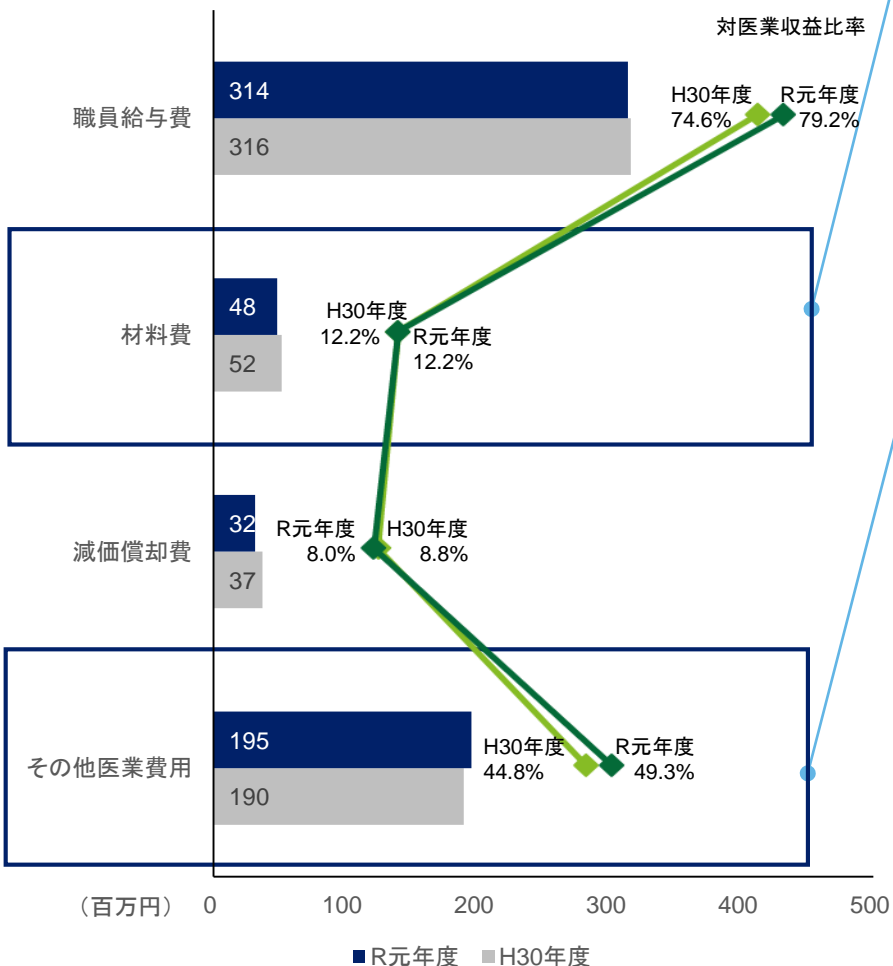
× :新改革プランの目標値を超過する実績となった

本吉病院 新改革プランの収支計画と実績
(R元年度, 対医業収益比率)

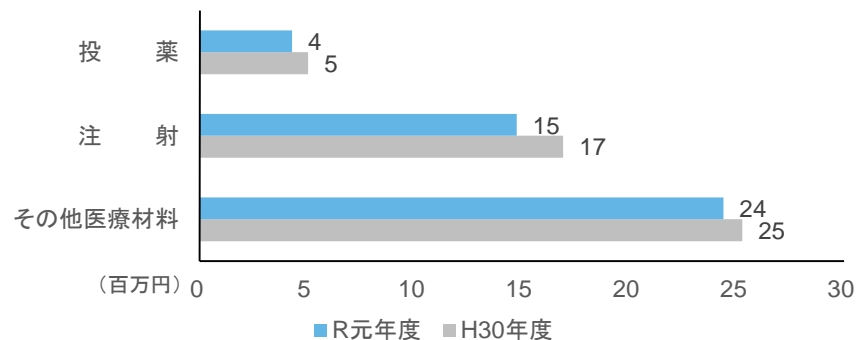
支出	R元年度 目標	R元年度 実績	達成状況
1 医業費用	166.9%	148.7%	○
(1)職員給与費	95.1%	79.2%	○
(2)材料費	13.6%	12.2%	○
(3)経費	50.2%	44.8%	○
(4)減価償却費	7.7%	8.0%	×
(5)その他	0.4%	0.5%	×
2 医業外費用	2.3%	3.9%	×
(1)支払利息	0.3%	0.2%	○
(2)その他	1.9%	3.6%	×
経常費用	169.2%	152.5%	○

R元年度は患者が減少したことに伴い、薬剤・医療材料ともにH30年度よりも少ない支出となりました
 また、その他医業費用についてもほぼH30年度と同額の支出となっています

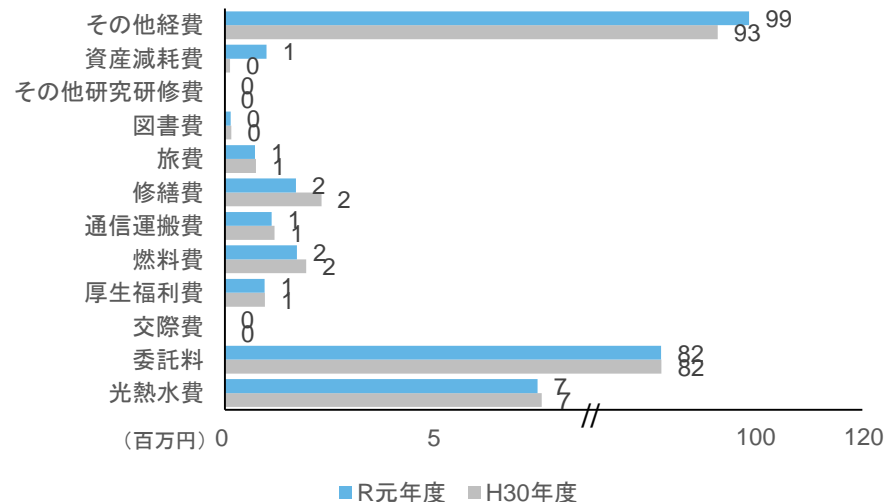
本吉病院 H30年度～R元年度 費用内訳別推移



材料費(給食材料費を除く)の内訳毎の年度推移



その他医業費用のうち、経費の内訳毎の年度推移



新改革プラン 地域医療構想を踏まえた役割の明確化に向けた取組状況とその評価

地域医療構想を踏まえ、医療従事者の確保に向けて奨学金制度を創設しました また、各病院が役割を踏まえた医療提供体制の整備を行ってきました

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度 実績数値	各年度の評価		
				R元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想を踏まえ、回復期病床を新設 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床フルオープンに向け、介護福祉士を3人中途採用した R元年8月に稼働病床数を26床から30床に増やしたものの、目標としていた36床の稼働は達成できなかった R2年4月の回復期病床稼働36床に向けて、看護師、リハビリテーション技師の採用に取り組んだ 	30床/48床	A	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療、周産期医療などを維持継続し、気仙沼地域の中核的病院として、本地域に不可欠な医療提供体制の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症、リハビリ、周産期、小児、救急、高度医療など、公的病院として求められる医療を提供し、必要な体制の維持に取り組んだ 夜間救急への対応として、当直を1人から2人体制に見直した 助産師の確保に向け、県内医療機関への協力依頼の調整を看護部で行った 市内で不足をしている薬剤師・助産師・看護師の確保・育成に向け、奨学金制度を創設した 	—	A	A	A
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の推進と市立病院との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の介護事業所や施設との勉強会を定期的に開催し、ケアマネージャーと毎月の情報交換を行うなど例年の取組を継続している 市立病院から本吉病院に転院し、その後本吉病院で在宅診療をおこなう患者がH30年度から増えており、市立病院との連携が強化されている 	在宅患者数 173人	A	A	A

R元年度も地域の医療・介護関連事業者や住民・患者と各種イベントや会議を通じて情報交換・懇話を行うなど、地域住民が安心して暮らしていくための医療体制の整備に努めてきました

地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
				R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携室を中心とした、保健・医療・福祉・介護との連携 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度も引き続き、地域医療連携室(現:総合患者支援センター)及び事務部を中心に、がん市民講座や地域医療交流会を開催し、気仙沼・南三陸在宅医療福祉推進委員会、気仙沼市地域包括ケア推進協議会等に参加した 地域連携室広報誌「つなぐ」を年2回発行し、市立病院の医師や専門的な資格を有するスタッフの紹介、医療機関との連携活動の実績や研修会の報告等、情報発信を行った 	—	B	B	C
	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所等の各種研修会に対して認定看護師を講師として派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師を各看護学校へ講師として派遣した 再発QOSを考える会にて、がん化学療法認定看護師による講演を実施した 皮膚・排泄ケア認定看護師を県内介護職員に対するストーマケア講習会の講師として2回派遣した <p>また、市内在宅ワーキンググループでも「ストーマの基礎知識と管理について」というテーマで講師を担当した</p>	—	B	B	C
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 住民との対話の機会を増やし、地域で必要とされる医療の把握に努め適切な対応ができるよう病院の体制を整える 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度も地域包括ケア市民フォーラムin本吉にて、地域講演を行い、地域住民と意見交換を継続した 地域の振興会に出向き、健康講和や懇話会を通して、地域住民と対話する機会の確保に取り組んできた また、R元年度は患者満足度調査を実施し、患者が本吉病院に期待する点、改善要望についての把握を行った 	フォーラム:1回 懇話会への参加:4回	B	B	B

市立病院では、医療機器等の整備を厳格に行い、新規の企業債の発行を抑えてきた成果が、R元年度資本的収支に対する基準外繰入額の減少という形で表れています

一般会計負担の考え方

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
				R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 「経営安定・健全化に向けた方策と長期収支計画」に基づき、基準外繰入の解消を目指した取組を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器整備委員会で医療機器の購入について厳格に審査を行い、医師の協力・理解を求めながら、将来の企業債元利償還金の抑制を目指した また、R元年度に整備した医療機器については、企業債発行せず、自己資金で対応した 	<p>R元年度 企業債発行額 0円</p> <p>計画値 150百万円</p>	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> H25年度に発行した企業債の元金の償還が終了したことに加え、新病院建設に資金が必要なこともあり、H26年度以降、医療機器の整備を厳格に行った結果、資本的収支における基準外繰入が減少した また、旧病院からの移転に伴い、一時的に経費が発生したが、移転も終了したため収益的収支における基準外繰入も減少した 	<p>R元年度基準外繰入額 実績額 368百万円</p> <p>うち 収益的収支 119百万円 資本的収支 249百万円</p> <p>計画値 326百万円</p> <p>うち 収益的収支 47百万円 資本的収支 279百万円</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> 経営健全化に向け、医師・看護師・コメディカルを中心に部門別目標管理制度を導入し、経営改善の取組をより一層推進した 	—			
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 料金収入の増加と経費の抑制に努め、繰入金金の減額を目指した取組を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな加算や管理料の届出を行い、料金収入の増加に努めたものの、患者数が減少し当初見込みよりも減収となったため、H30年度と同水準の繰入となった 	<p>R元年度 繰入金実績 171百万円</p> <p>計画値 236百万円</p>	A	A	A

回復期の稼働病床数を増加させたことに伴い、リハビリテーションの単位数増加につながりました
また、臨床研修医の受入に向けて、パンフレットを見直しました

医療機能等指標に係る数値目標(市立病院)

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度 実績数値	各年度の評価		
				R元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション 単位数(単位) 目標値:57,000単位 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床の拡大に合わせて、リハビリテーション技師や介護福祉士の採用を行うとともに、R元年8月から稼働病床を30床に増やし、リハビリテーションの充実を図った リハビリテーション技師1人当たりの単位数は組織全体で13.89単位の実績となっており、引き続き技師の生産性の向上によるリハビリテーションの充実が求められる 	101,215単位	A	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 分娩件数(件) 目標値:440件 	<ul style="list-style-type: none"> 病棟見学, 分娩室・新生児室の見学, 母親学級の開催など, 安心して出産ができる環境作りを継続している 出産後の母親の不安軽減, 課題のある母子へのケアを目的に, 無料の産後ケアの取組を継続している。また, 産後ケアの取組の有償化に向け, 市と検討の場を設けた 助産師の勤務体制維持に向け, 県内医療機関へ協力依頼を継続して行うとともに, 助産師確保に向けて奨学金制度を創設した 	355件	B	B	C
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医受入 人数(人) 目標値:10人 	<ul style="list-style-type: none"> 東北大学の卒後研修における地域医療重点プログラムにおいてたすきがけ研修の協力病院として, 研修医1年目は2人まで, 研修医2年目は3人までの受入を開始した H30年度に決定した臨床研修医向けの病院案内パンフレットを, 予定どおり作成した 医学生の見学受入について, 臨床研修医として受入が決定した医学生に働きかけをお願いし, 東北大学の医学生を中心にPRした 	8人	B	A	A

本吉病院に求められる医療機能を限られた人員体制ながらも実践し、地域医療に貢献しています

医療機能等指標に係る数値目標(本吉病院)

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度 実績数値	各年度の評価		
				R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療対象患者人数(人) 目標値:120人 	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同様、ケアマネージャーや、在宅利用者からの紹介を受け、限られた人員体制の中で在宅医療対象患者の新規受け入れを実施している 	173人	A	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰率(%) 目標値:85.0% 在宅復帰率=自宅へ退院した患者数/自宅からの入院数-死亡退院数	<ul style="list-style-type: none"> 在宅介護サービス事業所との連携を継続している 介護施設との連携を図り、目標値85%を上回る在宅復帰率を達成した 	88.3%	A	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看取率(%) 目標値:30.0% 在宅看取率=自宅+施設での看取数/全看取数	<ul style="list-style-type: none"> 口から食べる取組や訪問リハビリなども、H30年度と同様に、継続して実施している 看取り場所は患者の希望を極力優先する対応を継続している 	43.8%	A	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医受入人数 目標値:20人 地域医療分野での1か月間研修を1人と数える	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同様に、様々な医療従事者や、本吉病院で研修を行った医師からの紹介で目標以上の受入を実現している 	25人	A	A	A

R元年度は、リハビリテーション技師による事例発表や、各地域での市民懇談会を開催する等、市立病院でも住民との対話の機会を設けた取組を実施しました

住民の理解のための取組

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R元年度の取組状況	R元年度実績数値	各年度の評価		
				R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病棟の機能について、市民の理解を深めるよう広報していく 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病棟・急性期病棟のリハビリテーション技師が、市内で開催された高次脳機能障害に関する研修会で、事例発表を行った また、当院の役割は急性期から回復期医療までの入院医療や、総合病院としての専門的な診断・治療であることから、医療の質をより高めるためにR2年度から外来受診時の選定療養費を導入することを決定し、市内9カ所で市民懇談会を開催し、地域住民へ説明を行った 	院外への情報発信活動 1回 市民懇談会 9回	A	B	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 本吉病院が行う在宅医療の取組について、本吉病院の取組等を周知して市民の理解を深めるよう努めていく 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度も地域包括ケア市民フォーラムin本吉を開催し、病院に対する意見や住民ニーズの把握に努めている 振興会に出向き、健康講話や懇話会を実施している 	市民フォーラム実施回数 1回 懇話会への参加 4回	B	B	B

新改革プラン 再編・ネットワーク化に向けた取組状況と その評価

病床再編・機能再編の取組の一つとして、市立病院では選定療養費の導入を決定しました
 また、本吉病院でもこれまでと同様、地域の医療・介護事業所と顔の見える連携を継続して実施しています

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R元年度の取組状況	各年度の評価		
			R元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期は他の医療圏とも連携をしながら急性期を中心に回復期まで対応することで、安心でより良い地域医療を提供 地域の医療機関との連携を緊密にしながら医療情報の共有化を充実し、物流等の効率化の検討を進める 	<p>【病床再編・機能再編に関連する市立病院の取組状況】</p> <p>① 総合患者支援センターの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 回復期病床の稼働病床の増加に伴い、当院から在宅復帰する患者が増えていくことを踏まえ、地域医療連携室、医療相談室及びがん相談支援センターを組織統合し、総合患者支援センターに再編する方針を決定した 総合患者支援センターとすることで、院内外の医療連携やチーム医療の支援、患者相談等、多岐にわたる患者に対する医療・保健・福祉を含めたサービスが提供できる体制になることが期待できる <p>② 選定療養費の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 当院の役割は、急性期から回復期医療までの入院医療や、総合病院としての専門的な診断・治療であることから、R2年度からの選定療養費の導入を決定した 	A	B	B
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携を深める 	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同様に、人員配置に限りがある中でも、地域包括ケア市民フォーラム in本吉を開催し、地域の在宅医療、介護、福祉関連事業所と意見交換を実施するとともに、ケア会議に参加し、地域のケアマネジャーと情報交換するなど、本吉病院に求められるニーズの把握に努めている 在宅医療を含めた総合診療を継続していく体制維持に向け、審議会を通して、市立病院とともに病院事業のあるべき姿や体制について検討を行った 	A	B	B

新改革プラン 経営形態の見直しに向けた取組状況と その評価

気仙沼市病院事業審議会で議論を重ねた結果、地方公営企業法全部適用による事業運営が望ましいという結論に至りました

経営形態の見直しについて

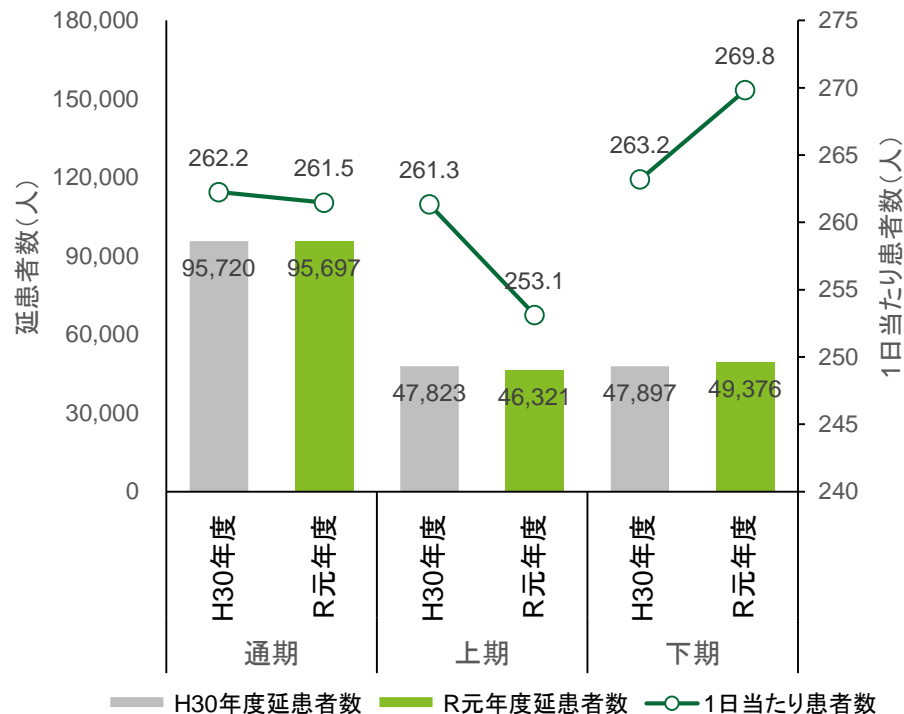
病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R元年度の取組状況	各年度の評価		
			R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	<ul style="list-style-type: none"> 新病院開院後のH30年度に「(仮称)市立病院経営形態検討委員会」を立ち上げ、相応しい経営形態について議論を進めていく 	<p>【経営形態についての議論】</p> <ul style="list-style-type: none"> R元年度は、5回にわたる気仙沼市病院事業審議会において、2病院の相応しい経営形態に関する調査・審議を集中的に行った 審議会での議論を重ねた結果、現行の「地方公営企業法一部適用」と比較し、政策的医療が相当程度担保され、かつ医療や病院経営に関する見識を有し、強いリーダーシップや優れた経営感覚を有する事業管理者を置くことのできる優位性がある「地方公営企業法全部適用」が望ましいという結論に至った。その中で、「地方公営企業法全部適用」への移行に際しては、医療や病院経営に関する見識を有し、強いリーダーシップや優れた経営感覚を有する事業管理者を確保する努力をした上で、市長部局の適切な支援と、病院事業の独自性に配慮しつつ、専門的ノウハウを有する外部人材の活用や、人材育成の仕組みの構築が求められるなどの意見が出された 	A	A	D
本吉病院	<ul style="list-style-type: none"> 今後市立病院と一体となって議論を進め、地方公営企業法全部適用の検討を行っていく 				

新改革プラン 補足資料

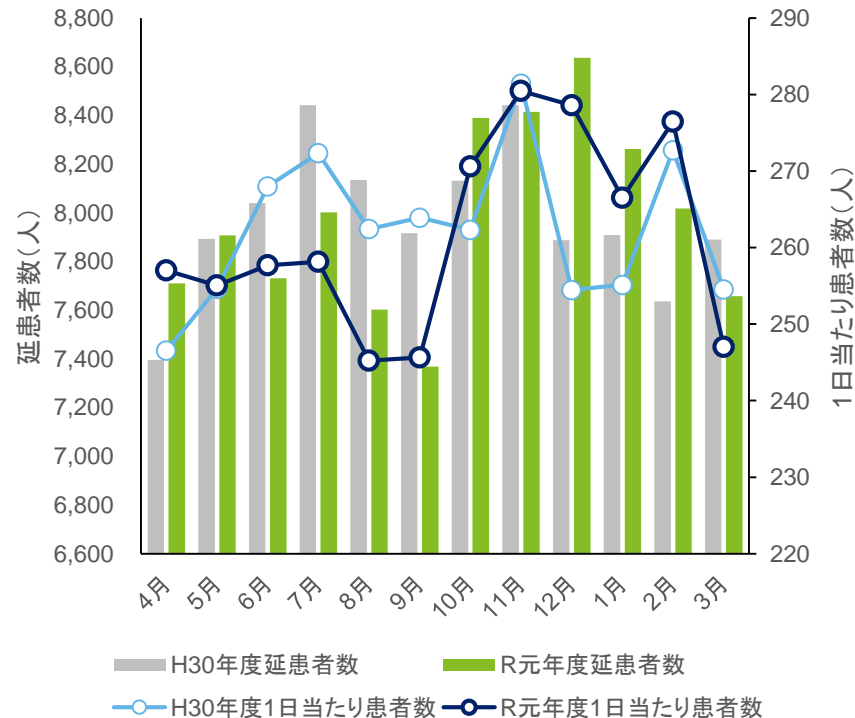
【市立病院:補足資料】

R元年度は病院全体で目標管理による経営改善の取組に着手し、特に入院患者数の確保について成果を見ることができました

R元年度 入院患者数について



✓ R元年度は上期の1日当たり入院患者数がH30年度上期と比べ、8.2人減少しました。一方、下期は269.8人／日とH30年度と比べ、6.6人増加したことで、通期では、0.7人の減少に抑えることができました



✓ R元年7月～9月にかけて、院長と経営企画課が中心となり、診療部長・科長、病棟師長、コメディカルの責任者(科長、技師長等)との面談で下期の目標設定を行いました

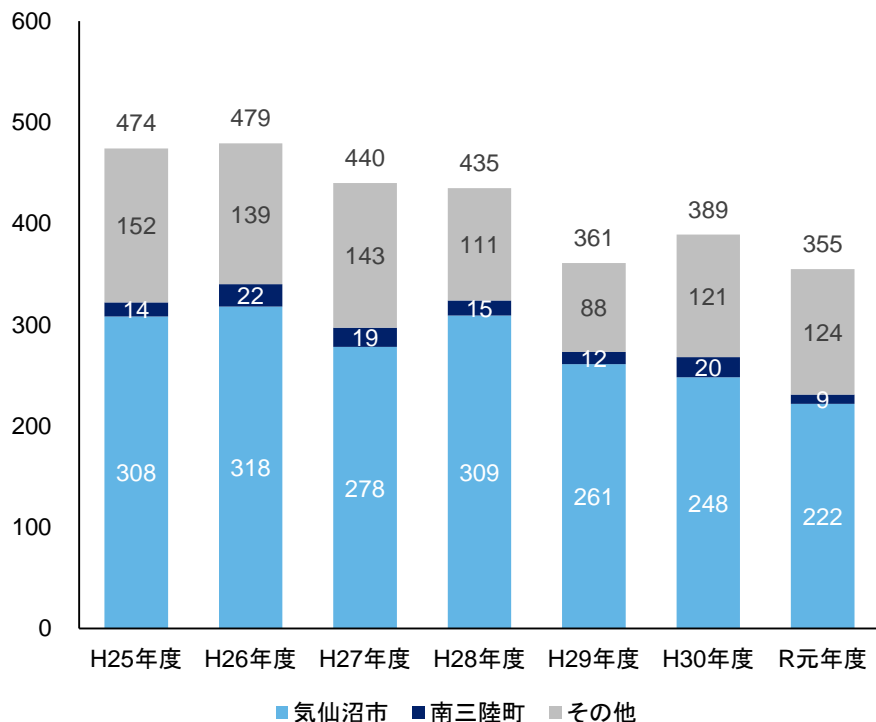
✓ R2年3月は新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数が落ち込んだものの、目標管理の成果が見て取れる結果となりました

【市立病院:補足資料】

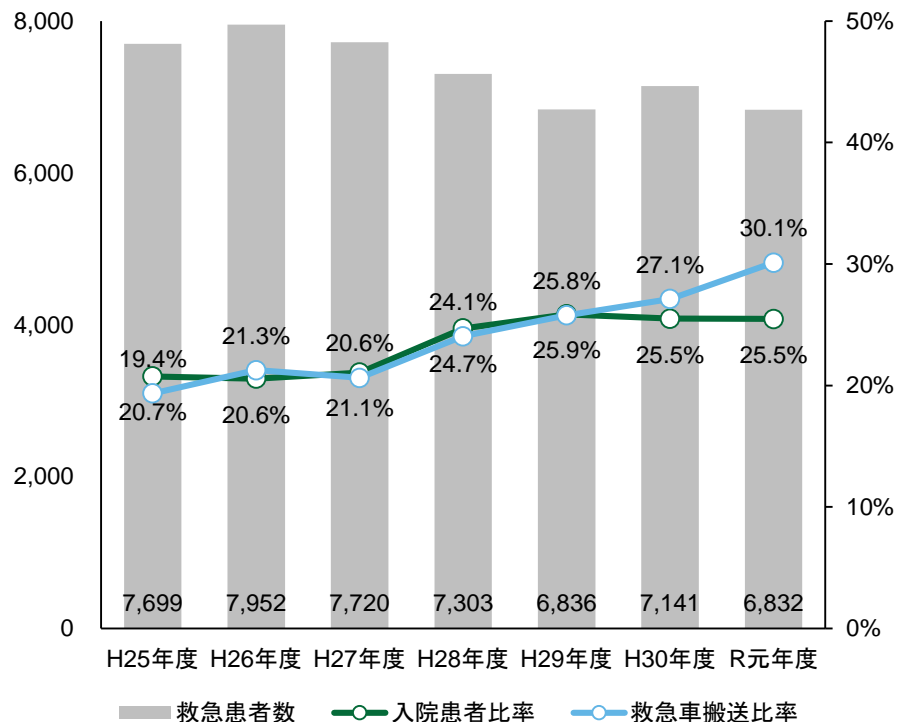
周産期医療は分娩件数の減少傾向が続いています

救急患者数は減少しているものの、入院につながる患者の割合は横ばいで推移しています

分娩件数の推移(周産期医療への対応)



救急患者数の推移(救急医療への対応)



✓ 分娩件数は若手層の人口減少に伴い、遞減傾向にあります

✓ R元年度はH30年度と比べて救急患者数は減少し、年間6,832件の救急患者を受入れました

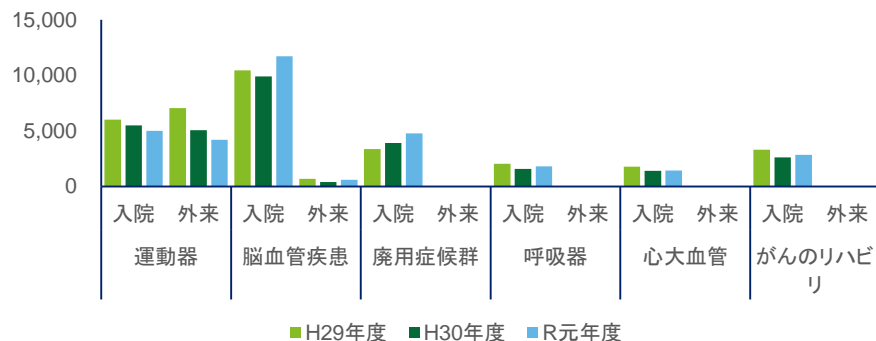
✓ R元年度は、救急患者のうち入院につながる患者が25.5%を占めています。また、救急車搬送比率も30.1%に上昇しており、地域の中核的病院として、救急隊と連携をとりながら、救急医療に貢献をしています

【市立病院:補足資料】

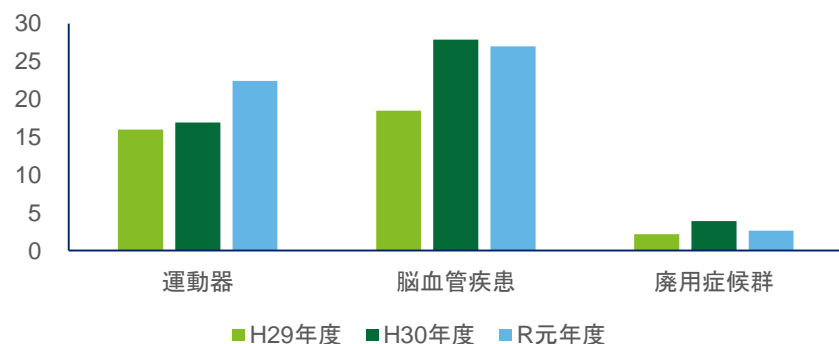
回復期リハビリテーション病棟では運動器リハビリテーションのオーダーが増加しています

薬剤科では、目標管理の取組に合わせて、薬剤管理指導料の算定件数増加に向けて取り組みました

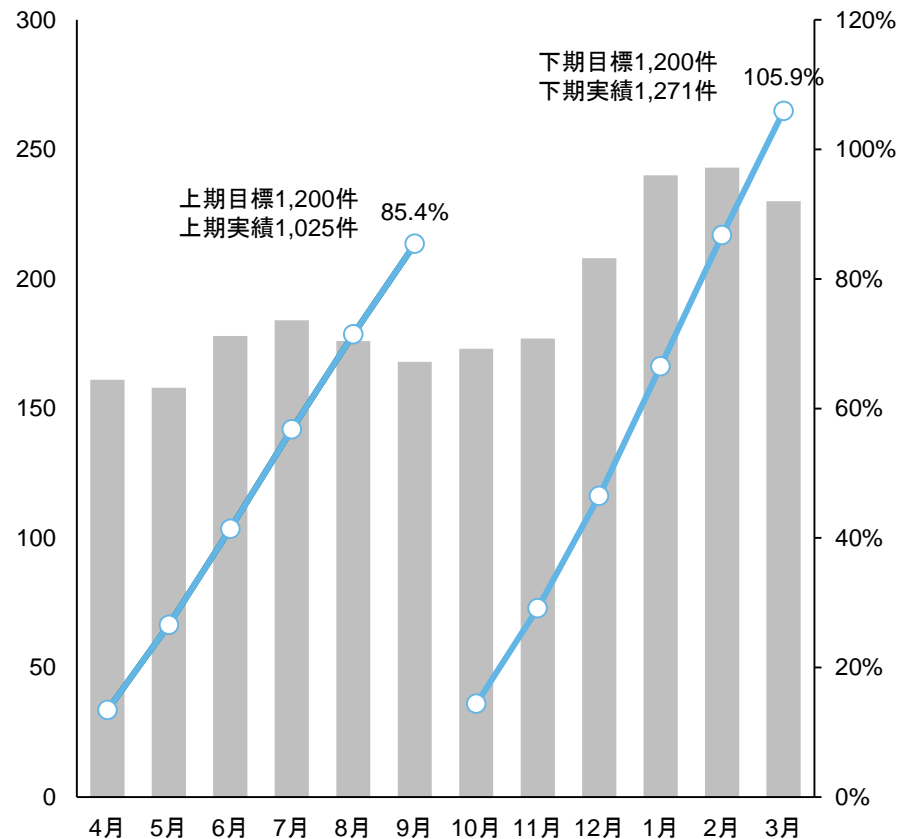
【一般床・外来分】H29年度～R元年度のリハビリ比較



【回復期】H29年度～R元年度の1日当たりリハビリ比較



R元年度 薬剤科の取組状況(薬剤管理指導料の算定)



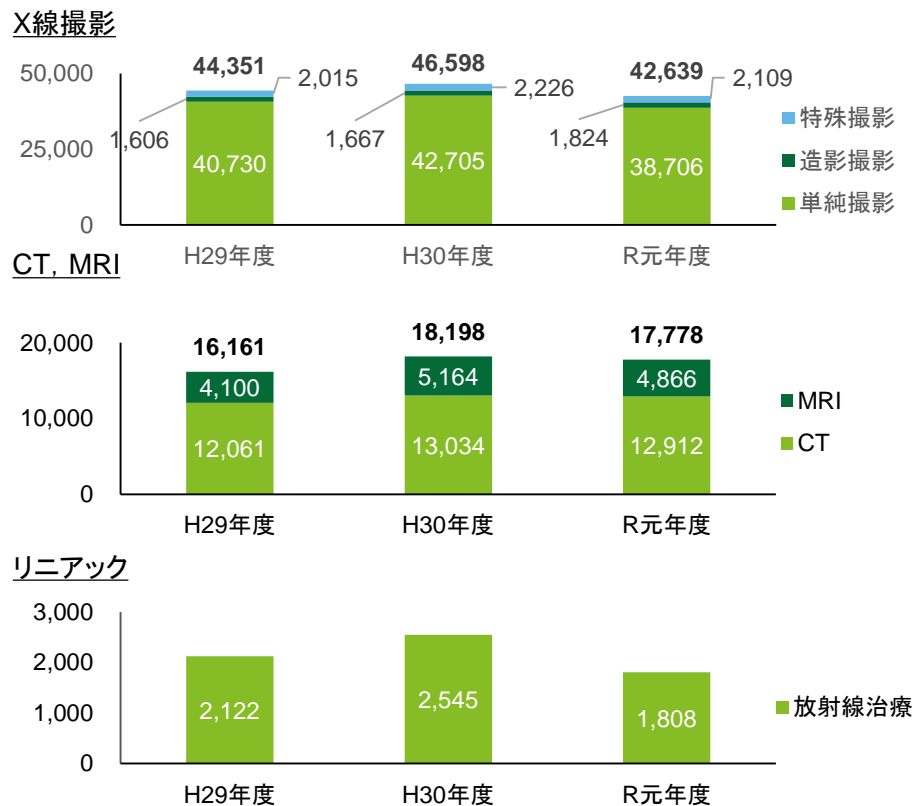
- ✓ 回復期リハビリテーション病棟の開設に伴い、急性期病床や外来でのリハビリオーダー件数が減少しています
- ✓ 急性期病床に入院する患者へのリハビリテーション提供量が減少しています

- ✓ 薬剤科では、薬剤管理指導料の算定について、目標管理に取り組みました
- ✓ 上期達成率85.4%に対し、下期は達成率105.9%となりました

【市立病院:補足資料】

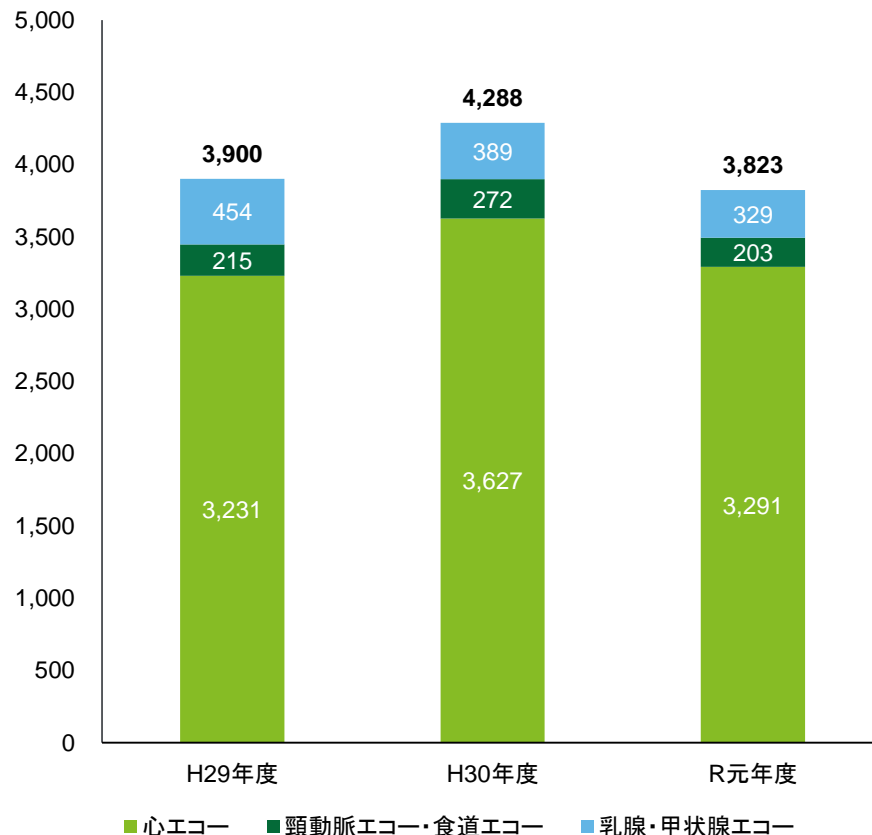
画像撮影や超音波といった医師へのオーダーの働きかけが必要な取組については、課題が残る結果となりました

R元年度 中央放射線室の取組状況 (画像撮影オーダーへの対応)



✓ 画像撮影について、R元年度はX線撮影、CT、MRI、リニアックいずれの機器においてもオーダー一件数がH30年度と比較して減少しています

R元年度 臨床検査室の取組状況 (超音波検査オーダーへの対応)

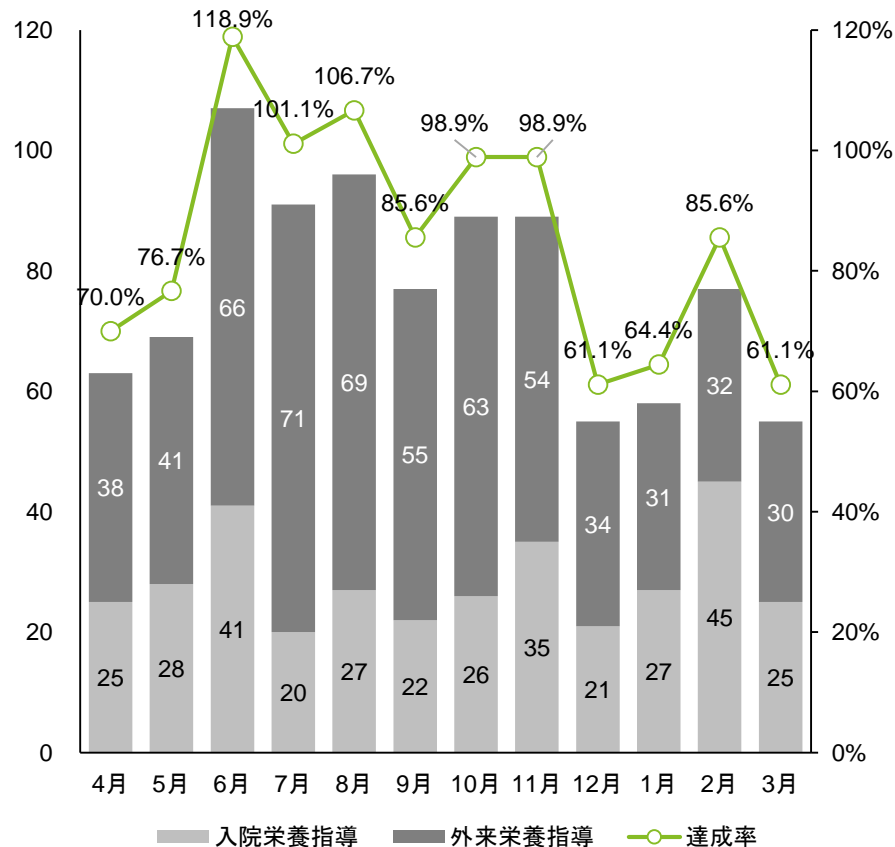


✓ 超音波検査について、R元年度は心エコー、頸動脈エコー・食道エコー、乳腺・甲状腺エコーいずれの検査においても、オーダー一件数がH30年度と比較して減少しています

【市立病院:補足資料】

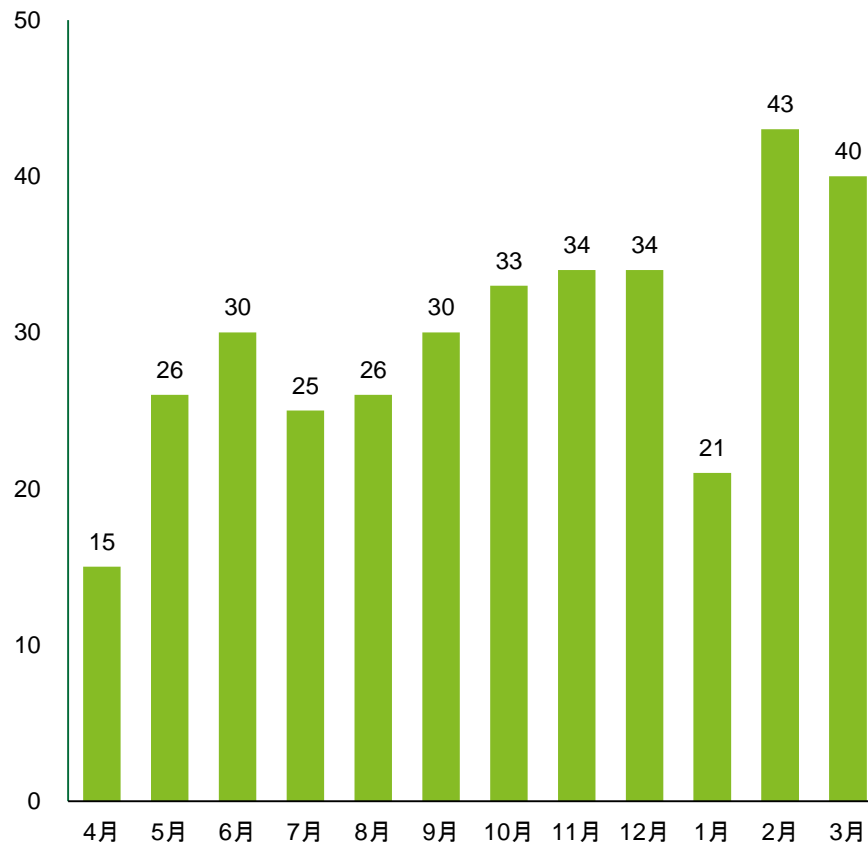
栄養指導や栄養サポートチームの介入についても、目標を設定し下期以降取組をおこなってきました

R元年度 栄養管理室の取組状況
(栄養指導件数の取組)



✓ 栄養指導については、外来を60件/月、入院を30件/月を目標に取組みました。R元年度の栄養指導件数は、外来・入院ともに目標を下回りました

R元年度 栄養サポートチームの取組状況
(積極的な介入による加算算定件数の取組)



✓ 当チームの介入によって算定ができる栄養サポートチーム加算は、病棟の目標管理が始まった下期以降、入院患者数が増えたこともあり、R元年度下期は1月を除き毎月30件以上の算定につなげることができました